



当校 HP の QR
コードです。

進路だより

揖斐特別支援学校

キャリア支援部 第6号



～ 未来へはばたくみなさんへ ～

令和7年度 11月発行

高等部のみなさん、現場実習・校内作業実習お疲れ様でした。今月号は、現場実習と校内作業実習の振り返りをします。生徒の皆さんの感想や企業や事務所の方からの助言をまとめたものです。今後の参考にしてください。

【現場実習】

- ・実習を通して、改めて働くことの厳しさを感じる生徒もいた。ただ、実習先の方から優しく丁寧に仕事を教えていただき、「勤労観」や「就労観」について考えるきっかけになった。
- ・実習で円滑な共同作業を行うためにも、基本的な挨拶やコミュニケーション能力、社会人として必要とされるマナーや礼儀などを身に付けることの重要性を学んだ。
- ・3年生は、卒業後の進路を見据えた事業所で実習に臨み、改めて自分の進路についての気持ちを確かなものにできた。また、自分の住んでいる地域社会で活躍したい志を強くもつことができた。
- ・どの仕事も「安全・品質・効率」が基本だと理解できた。安全に作業を行い、品質が確保できて初めて効率的作業へとつながる。決して、自己解決をせず確認し、慌てて作業をしない。
- ・メモ帳の活用。（現場で指導を受けたことや注意点等をメモ帳に書き留める力）
- ・一般就労を希望する人は、自力通勤（自転車、電車・バス等の公共交通機関の利用）できる力を早い段階で身に付ける。（実習先が決定したら、事前にルートや時刻表を確認し、練習しておく。）



【校内作業実習】

校内作業実習では、1年生の生徒が中心となり、『箱折り』（オークニ株式会社）と『シールセットの袋詰め』（株式会社アーク）、『シンプル通し、ねじり加工』（東神電気株式会社）の委託作業を行った。作業の種類が増えることで、急な作業内容の変更にも対応できる力を身に付けるなど、より現場実習に近い形で校内作業実習を行うことができた。6月に一度経験していることもあり、作業スピードが上がった生徒も多くいた。また、長時間集中して作業を行う力が身に付いたことや、時間を意識した移動や準備・片付けを素早く行う姿などからも成長を感じた。また、作業量だけではなく、身だしなみ、言葉遣い、作業に向かう姿勢など、様々な場面でも「働く人」を意識して取り組めた。



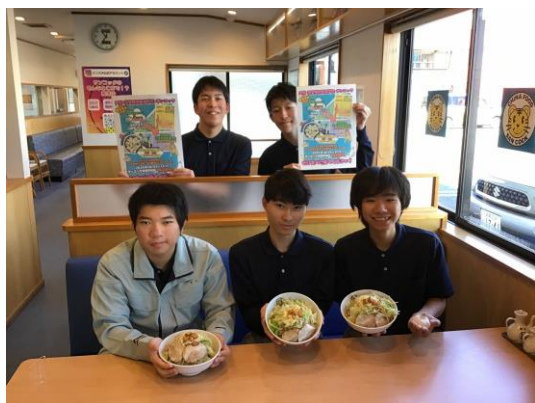
◆◆こんな記事がニュースになっていました！！◆◆

大阪市にある「絆ホールディングス」という福祉関連会社が、障害者就労支援の給付金（報酬）を約27億円過大に受給していた疑いが浮上した。同社の子会社や関連のNPO法人が大阪市内で就労継続支援A型事業所を複数運営しており、**利用者がA型事業所から一般企業に移って6か月以上働くと、就労定着を評価する形で人数に応じて事業所への給付金が翌年度に加算される制度**を悪用したとのこと。関係者によると、この会社ではA型事業所で働く利用者を、一時的にグループ内でデータ入力等に携わらせて「一般就労」の形に変換し、6か月以上経ったらまたA型事業所に戻し、その後再び一般就労に移行させることを繰り返していた。

「進路だより」第1号でもA型事業所の説明をしましたが、本来障がいのある方が、**安定した収入（最低賃金）**を得ながら、将来的に**一般企業で活躍**するためのスキルを身に付け、**社会参加**を実現するための重要なステップとして機能すべきです。利用者の方の意思を無視し、金儲けのために制度を悪用することは、言語道断です。

”未来留学”に当校も参加します

未来留学とは、若者が進学を機に県外へ出たまま、地元就職しない現象が加速する今日の状況を打破するために、高校生が地域の企業の経営課題に触れ、自分たちの強みを活かして解決に挑む経験を通して、地域社会とつながり若者の力で地域を承継していくビジョンを描き、立ち上がったキャリア教育プログラムです。昨年度より**大垣商業高等学校**が参加し、今年度新たに**当校**と**愛知商業高等学校**が加わりました。プロジェクト参加企業の株式会社サンコーフードサービス様と農園芸班、株式会社小山様が竹・工芸班と協力し、コラボ製品作りに取り組みました。今年度の「成果発表会」を12月21日の日曜日、13時からソフトピアジャパンセンターソピアホールで行います。



★大垣商業高等学校の生徒とサンコック様が協力し考案した「二郎チャーハン」に、農園芸班で生産・収穫したニンニクが使用され、販売されました。



★竹・工芸班の生徒たちが夢中・無心で織った“手織り布”が小山様の製品や手芸キット商品とコラボし、販売されました。